

平成25年度 第2期海域管理計画モニタリング評価シート(案)

〈知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループ〉

1. 評価項目

アザラシ類（海棲哺乳類）

2. 評価項目の位置付け

[総合評価]

総 論	◇知床周辺海域の現状
	◇今後の方向性
	◇モニタリングについて
	◇その他

[横断評価]

地球 温暖化を 含む気候 変動	○季節海氷の動態とその影響 ・海氷の接岸時期変動 ・水温の変動 ・季節海氷と海洋生態系
生態系 と 生物 多様性	○生態系 ・海洋生態系と陸上生態系の相互作用 ○生物多様性 ・食物網,生物多様性,平均栄養レベル

[個別評価]

海洋環境 と 低次生産	海氷
	水温・水質・クロフィラ・プランクトンなど
沿岸環境	有害物質
魚介類	サケ類
	スケトウダラ
海棲 哺乳類	トド
	アザラシ類
鳥類	海鳥類
	海ワシ類
社会経済	資源環境、食料供給、産業経済、 文化振興、地域社会

3. 評価項目に関わる調査・モニタリング表

モニタリング項目	主な内容	調査名称等
アザラシ類の生息状況の調査	陸上及び海上からの目視調査	平成24年度海棲哺乳類生息状況調査 業務報告書（北海道）
羅臼海域での有害駆除個体調査	来遊状況調査及び有害駆除されたアザラシの食性、 DNA、繁殖などの解析	羅臼海域での有害駆除個体調査（特定非営 利活動法人 北の海の動物センター）

4. 保護管理等の考え方

来遊状況や漁業被害状況の調査を進め、鳥獣保護法に基づく管理を行う。

5. 評価

(1)現状

○アザラシ類の生息状況の調査
<平成25年度調査未実施>

(2)評価

評価	冬期間広範囲に渡る調査のため、天候や流水の状況などにより調査結果が左右され、生息状況の把握が困難であり、定量的な調査方法が確立していないため評価できない。しかし、アザラシの衰退や人間の利用の低下により、オホーツク海全体に生息するゴマアザラシの個体数は増加傾向にあると考えられる。
----	---

(3)今後の方針

今後の方針	冬季のモニタリングとして無人ヘリの利用を検討し、定量的な調査に結び付けるとともに、冬季の観光船や漁業者によるアザラシの個体や出産の目撃情報などの収集を行い、定性的な調査も同時に行っていく必要がある。
-------	---

6. モニタリングの概要

(1) 来遊状況 ※ 平成25年度調査未実施のため平成24年度データ参考掲載

調査・モニタリング名	平成24年度海棲哺乳類生息状況調査業務報告書
主な内容	知床半島沿岸及びその周辺海域における海棲哺乳類の生息状況について把握する
対象地域	斜里町、羅臼町
頻度	平成25年2月～3月
調査主体	北海道

調査結果概要

○調査方法

調査方法	海上からの調査（船によるライントランセクト）	上空からの調査（ヘリセンサス）
調査範囲 ほか手法	羅臼漁港から知床半島先端部までの流氷によって船舶の航行が阻害されない海岸域及び海域とし、原則、流氷の縁を約10ノットで航行する	知床半島沿岸及びその周辺海域
調査内容	海上及び上空から海棲哺乳類の上陸、回遊個体の状況及び出産状況を双眼鏡等で確認し、種別及び個体数、分布域等について把握する	

○海上からの調査結果

年月日	アザラシ類				合計	備考
	上陸		遊泳			
	ゴマフアザラシ	クラカケアザラシ	ゴマフアザラシ	クラカケアザラシ		
25.3.24	5（親子1組）	10（オス5頭）	2	3	20	
25.3.25	4（親子1組）	1	0	0	5	親子の近くにミンククジラ1頭（オス）

○上空からの調査結果

年月日	アザラシ類			
	ゴマフアザラシ	クラカケアザラシ	不明	合計
25.3.12	3	3	7	13
25.3.15	2	7	2	11
合計	5	10	9	24

<上記以外の調査>

[陸上調査]

		H18	H20
斜里町側	ゴマフアザラシ	66	6
	トド	1	-
	カマイルカ	1	-
羅臼町側	ゴマフアザラシ	3	37
	トド	6	24
	カマイルカ	1	-

[海上調査]

		H18	H20	H22	H25
羅臼町側	アザラシ類	1	28	23	6
	イシイルカ	-	3	-	-
	ネズミイルカ	-	1	-	-
	ミンククジラ	-	6	-	-
	ツチクジラ	-	-	10	-

[航空機調査]

平成22年度に斜里町側において実施したが、来遊個体は確認されなかった。

(2) 個体特性

調査・モニタリング名	羅臼海域での有害駆除個体調査
主な内容	来遊状況の調査及び有害駆除されたアザラシの食性、DNA、繁殖などの解析
対象地域	羅臼町
頻度	1～3月
調査主体	特定非営利活動法人 北の海の動物センター
調査結果概要	<p>【調査時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009年2月～3月 <p>【調査個体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羅臼町で有害駆除されたゴマフアザラシ29個体を調査 <p>胃、筋肉を採取し、胃より食性分析を、筋肉及び魚類から安定同位体分析を実施</p> <p>【出現内容及び頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12項目（7科11種の魚類、頭足類）が出現 ・イカナゴ86.2%、スケトウダラ20.6%、ツツイカ類10.3% <p>【結果】</p> <p>・従来は、スケトウダラを始めとするタラ科魚類の利用が多かったが、今回はイカナゴが圧倒的な卓越種となった。安定同位体の結果からは、一時的な卓越種であり、長期的な食利用を見ると、約60%を占める主要餌生物であることが明らかになった。このことは、イカナゴの資源が増加していて、かつ栄養価が高く食べ易いこと、スケトウダラの月別資源が変化していることなどが影響しているようである。</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年度は12頭、2011年度は0頭、2012年度は18頭、2013年度は20頭のサンプルがあり、今後食性を解析する予定。